

# 第6回近江の子ども俳句教室

## 作品集

まえがき

私たちの団体は「国語力は人間力」という合言葉のもとに活動しています。その企画の中に「近江の子ども俳句教室」があります。俳句を作ったり、友だちの俳句を読んだりすることをすすめている活動です。その理由は? それは、俳句を通して、次の力が育つからです。

一つ目は、まわりの景色や季節の変わり目に気づけるようになることです。「きれいだな」「いいな」と思えることが、だんだんふえていきます。これは、感じる心が育つということです。

二つ目は、小さな音や色にも目を向けられるようになることです。ふだんは見のがしてしまうことにも、「すてきだな」「美しいな」と思えるようになります。これは、やさしい心が育つということです。

三つ目は、五・七・五の短い言葉の中で、「どの言葉がいちばん伝わるかな」と考えることです。まよつたり、えらんだりすることが、だんだん楽しくなっていきます。こうして、考える力が育つていきます。

俳句は、見たこと、感じたことを、十七音であらわすことから始めればよいのです。そんな小さなつみ重ねの中に、これら三つの力がふくれていています。

また、友だちの俳句を読むと、「こんな見方もあるんだ」「この感じ方、すてきだな」と思うことがあります。そうして、友だちの気持ちを大切にする心も、いっしょに育つていきます。この入選作品集を読んで、「俳句を作つてみたいな」「俳句つて楽しいな」と思つてもうれしいです。

今回の俳句募集には、小学生と中学生のみなさんが、たくさん参加してくれました。勇気を出して応募してくれたみなさん、学校や学級で取り組んできださった先生方、そして、いつも子どもたちを見守り、はげましてくださった保護者のみなさまに、心からお礼を申し上げます。

令和八年一月吉日

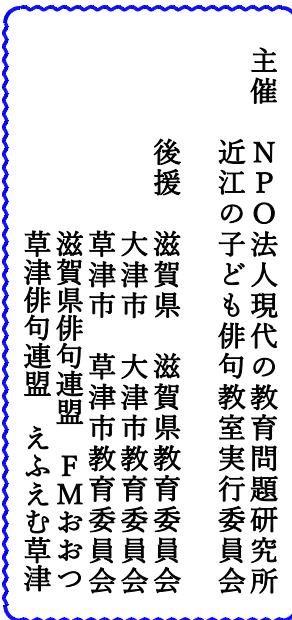
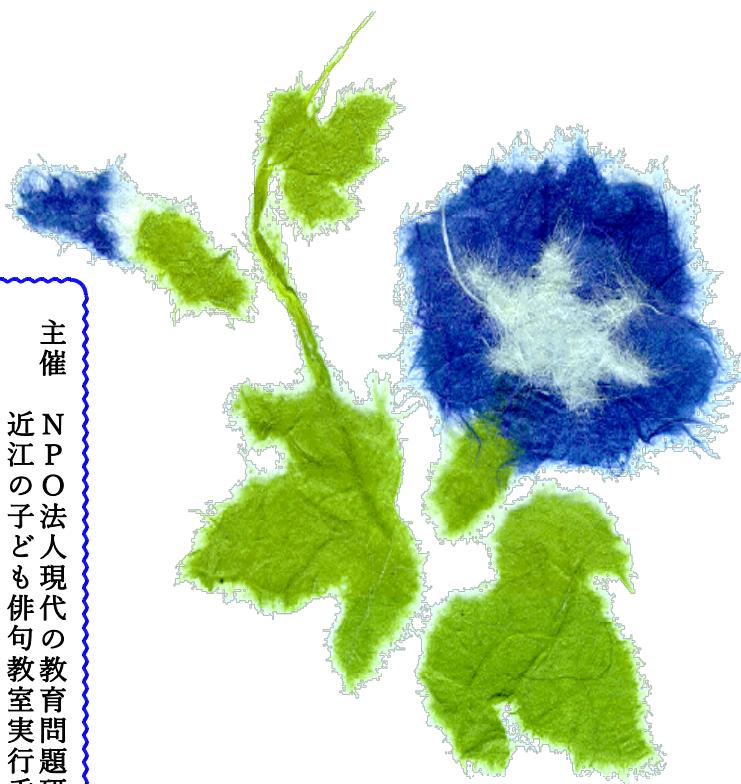
NPO法人現代の教育問題研究所

理事長 吉永 幸司

後援  
滋賀県  
大津市  
草津市  
滋賀県俳句連盟  
えふえむ草津

主催

NPO法人現代の教育問題研究所  
近江の子ども俳句教室実行委員会



## 第6回近江の子ども俳句教室・対面部門

令和七年七月二十六日(土)  
キラリエ草津市民総合交流センター

佳 作

滋賀県知事賞 京都府・京都女子大学附属小学校3年

けんかする 入道雲と 青い空 二上翔伍

じりじりと照り付ける暑い日に、翔伍さんは思わず空を見上げたのですね。入道雲が目に入り、しばらくながめていたのでしょう。入道雲はまるで生き物のようにむくむくと上へ上へ伸び上がり、青空を突き破るような勢いです。そんな空と入道雲の力関係を「けんかする」と表現することでき、生き生きとした躍動感のある句になっています。入道雲の「白」と空の「青」の色の対比も美しいですね。滋賀県知事賞にふさわしい秀句です。  
(好光幹雄..近江の子ども俳句教室実行委員長)

大阪府・吹田市立吹田第一中学校  
滋賀県・大津市立膳所小学校  
4年 石川未来  
1年 鶴田淳悟

夏休み 線香花火 友達と

滋賀県・東近江市立八日市北小学校

太陽に 向かって歩く ひまわりと

滋賀県・滋賀大学教育学部附属小学校

海よ海 あつい夏が やって來た

5年 山脇二葉  
5年 山脇二葉

滋賀県・野洲市立北野小学校

木の枝で 蟬の合唱 韶き合う

3年 山田巴絵  
3年 山田巴絵

滋賀県教育長賞 滋賀県・大津市立瀬田中学校1年

手花火の 香りなつかし 祖母の家

滋賀県・大津市立瀬田小学校

ハスの花 ピンクや白がかわいいね

夏の空 打ち上げ花火 夜の虹

4年 藏野史織  
4年 藏野史織

京都府・京都女子大学附属小学校

おつきさま キラリキラキラ きれいだな

2年 上田紗良  
2年 上田紗良

陽炎が 夕日をゆらす アスファルト 藏野圭一郎  
陽炎は春の季語。夕方のアスファルトの道で陽炎が立つのを、圭一郎さんは「これは詩歌的な情景だな」と立ち止まつてしまら見ていたのでしよう。まず、その感動に共感しました。この句の表現の素晴らしさは、「夕日が揺れる」情景を、陽炎を主語にして「夕日をゆらす」としたこと。更に「揺らす」ではなく、ひらがな表記の「ゆらす」に換えたこと。ここに圭一郎さんの言葉の感性を感じます。

(森邦博.. N P O 法人現代の教育問題研究所 副理事長)

セミとつて 一週間で なぜしぬの

4年 浮村聰一  
4年 浮村聰一

## 第6回近江の子ども俳句教室・投句部門

投句期間 令和七年十一月一日（土）～十二月十日（水）

草津市長賞 大阪府・吹田市立第一中学校 1年  
鎌風に 抗う翼 風見鶏 鶴田淳悟

### 滋賀県知事賞

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

レフトへと 伸びる打球や 夏の風 草野結士

打つた人の立場と、野球を見ている人の立場の両方で読める俳句です。私は打つた人の立場で味わいました。チャンスの打席に立つた結士さんです。ストライクの球が飛び込んできました。打つた時の手ごたえと、レフトへ伸びる打球を見送る一瞬。「レフト」「伸びる」の言葉から、その時の結士さんの快い胸の高鳴りが伝わってきました。  
(吉永幸司・NPO法人現代の教育問題研究所 理事長)

### 大津市長賞

滋賀県・東近江市立湖東第一小学校 6年

アスファルト 打ち水しても まだ熱い 河口 駿

打ち水は夏の季語。猛暑の日の午後、打ち水でアスファルトの道路も少しは涼しくできると期待したのに、外れてしましましたね。中七・下五の「（）してもまだ（）」と言う言葉の続きぐあいから、駿さんのその時のがつかりした思いがひしひしと伝わってきます。裏切られた残念さや驚きまでもが想像できる句ですね。  
(森邦博・NPO法人現代の教育問題研究所 副理事長)

### 滋賀県教育長賞

京都府・京都女子大学附属小学校 6年

短日の 茜に染まる 下校道

浮村美千子

「今日も学校で、友達と楽しく過ごしたなあ。」そんな思いを持ちながら下校する美千子さんの姿が浮かんできました。「茜に染まる」という表現から、夕ぐれの美しさが伝わってきました。冬になつて次第に日暮れが早くなる「短日」という冬の季語を選んだのも美千子さんの素敵な言葉のセンスです。明日も元気に、背すじをのばし登校できそうですね。  
(北島雅晴・NPO法人現代の教育問題研究所)

### 大津市教育長賞

埼玉県・さいたま市立大東小学校 6年

星冴ゆる 照らしてくれる 塾帰り

江草朱莉

煌々と輝く星の中、白い息を吐きながら家に向かう姿が目に浮かびます。きっと、目標に向かつて一生懸命に努力しているところなのでしょう。そんな朱莉さんを励まし、奮い立たせてくれるのがたくさん星の澄みきつた光。心の様子と季語が一体となつた力強さを感じました。朱莉さんのセンスが光る一句です。  
(少徳信・彦根市立高宮小学校)

鎌風（かまかぜ）を大自然の厳しさや西洋でいう魔的なものの、風見鶏を家を守る小さな守護者として読むと、民話的な世界観を感じさせる句です。擬人化された強風に抗う翼は、何を思い何を目指しているのでしょうか。淳悟さんの若々しい豊かな感性がよく表現されており、今後の人としての広がりが楽しみに思えてくる一句です。

(蜂屋正雄・野洲市教育委員会)

## 草津市教育長賞

埼玉県・春日部市立武里西小学校 3年

七五三 きれいなきもの にあうかな 中村美結

美結さんは、七五三に着物を着るのですね。きっと、美結さんにぴつたりのすてきな着物なのでしょう。着物を着ているすぐたを思ふと、に合っているかなとドキドキワクワクしてきましたよ。そんな美結さんの気持ちが伝わってきましたよ。おうちの人たちも美結さんの着物姿を見て、かわいいな、すてきだなと思われる感じでしょ。私も見てみたいですね。

(山田定子・東近江市立湖東第一小学校)

## 滋賀県俳句連盟会長賞

滋賀県・高島市立新旭北小学校 3年

羽広げ 虫のとび立つ すがた見た

伊庭幸志

ふと発見した昆虫が、今まさに飛び立とうとする瞬間をとらえたところが見事です。姿が消えたあとも、その光景は残像となつて心に残り、小さな衝撃を与えたことでしょう。「はねひろげ」という言葉の選択によって、小さな生き物がもつ偉大な生命力や躍動感が強く感じられます。幸志さんのすぐれた観察力が生きた作品です。

(海東貴利・高島市立マキノ東小学校)

## 草津俳句連盟会長賞

滋賀県・草津市立笠縫小学校 5年

おおみそか カウントダウン 一秒前 田居祐亮

大みそかの夜は、おそらくまで起きていることがうれしいものですね。祐亮さんが家族といつしょにテレビを見ている場面を想像してみました。カウントダウンの「二秒前」というのが、微妙ですね。十、九、八、…と数える前に、息を吸い込んだタイミングのように感じます。読み手が、いろいろな想像を楽しめる俳句に仕上がりました。

(三上昌男・滋賀県総合教育センター)

## F M おおつ賞

滋賀県・東近江市立湖東第一小学校 1年

くろいたね いつぱいあるよ あけびだよ

夏原結衣

結衣さんの先生のお話をお聞きすると、おうちの人があもつてきてくださいやさいやくだものを教室におき、みんなでじっくり見ることができます。この俳句も、結衣さんの教室の「あけび」をしつかり見て「たねがおおいな」とびっくりしたからできた俳句(はいく)なのですね。食べてみると、またちがうびっくりをすると思いますよ。

(高野靖人・NPO法人現代の教育問題研究所 理事)

## えふえむ草津賞

滋賀県・高島市立マキノ東小学校 2年

雪だるま 雪玉のせて 成長だ

二川陽斗

陽斗さんの住んでるマキノは滋賀県でも雪が多い所ですね。俳句から雪が積もると待ちかまえていたように外に飛び出し元気いっぱい雪だるまを作っていくようすがうかんできます。「雪玉のせて」から雪だるまがどんどん大きくなつてできあがつた喜びが伝わってきます。「成長だ」にはうれしさいっぱいの陽斗さんの顔がありますね。

(伊庭郁夫・元大津市立木戸小学校教頭)

## NPO法人現代の教育問題研究所長賞8句

あの人瞳に映るは 桃の花

阪口実玲

埼玉県・さいたま市立大東小学校 6年

桃の花は香りがよく、更に美しいですね。そんな可憐な桃の花が「瞳に映る」とは、なんとロマンチックな表現でしょうか。見つめているあの人とは誰でしょうか。気になりますね。そしてこの桃の花とは実玲さんのことでしょうか。6年生らしい少し大人の雰囲気がする素敵な恋の句ですね。

(好光幹雄・近江の子ども俳句教室実行委員長)

満月や 大人になつても ついてくる 木村 光

埼玉県・春日部市立武里西小学校 6年

埼玉県・春日部市立武里西小学校 4年

光さんは小さい頃から、どこに移動しても見える満月を不思議に思つていいたのでしようね。「大人になつても」の一もから分かるように、これから更に成長する光さんにも満月は変わらず寄り添つてくれるのでしょうか。決して手の届かない光さんと満月との距離感から、宇宙の壮大さを感じられる神秘的な秀句です。

(高木富也..東近江市立能登川南小学校)

打球が するどく伸びる 天高し

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

おれのパパ はらがうきわで 水にうく 島村卓弥

天高しは秋の季語。澄み渡る空と野球場に響く快音。侑太郎さんが見つめる白球が、吸い込まれるように伸びていく軌道が鮮烈に浮かびますね。「するどく」という言葉からは、選手たちの躍動感や力強いスイングまで伝わってきます。秋晴れの下、白球を追う爽快な一瞬を真っ直ぐに切り取った、清々しい見事な佳句です。

(井上滉斗..滋賀県豊郷町立日栄小学校)

ゆつたりと水に浮かぶ「おれのパパ」と、それを見つめる卓弥さんの表情が目に浮かびます。うきわを使わずに浮いている様子を、「はらがうきわで」という七音で見事に表現しましたね。ユーモアあふれる言葉の選び方に、読んでいるこちらも笑みがこぼれました。夏の思い出を卓弥さんの目線で切り取った楽しい一句です。

(弓削裕之..京都女子大学附属小学校)

花火果て 静まる海の 夜の深さ 黒川紗良

埼玉県・さいたま市立大東小学校 6年

普通は花火の華やかさを句に詠みたいのですが、紗良さんは花火の後の光景を詠みました。「静まる海の夜の深さ」と表現することで、最後までものごとを見極めようとする紗良さんの探求心<sup>5</sup>と自然への畏敬の念までもが伝わってきます。「花火」の華麗な一瞬と「海の夜」の長さと深さの対比が見事に神秘的な詩情の世界を描いています。

(好光幹雄..近江の子ども俳句教室実行委員長)

ダイビング キヤツチや春の 土匂う 馬場陽大

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

夕焼けや 試合の後の ハイタツチ 小山 翼

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

先ず、句またがりの高度な技法で躍動的な「ダイビングキヤツチ」と切れ字の「や」を生かした見事さに脱帽です。陽さんが野球をしていて、実際にダイビングキヤツチをした体験があつたからこそ詠めた句ですね。その時の清々しさが「春の土匂う」から伝わってきます。ドラマの一部を切り取つたような鮮やかさで感動的な秀句です。

(好光幹雄..近江の子ども俳句教室実行委員長)

※句またがり=言葉の意味のつながりが五七五の切れ目をまたぐこと。この句の場合はダイビングキヤツチ。

夕焼けでグラウンドがオレンジ色に染まる時間まで続いた試合は、翼さんのチームにとつてうれしい結果に終わつたのでしょうか。最後が「ハイタツチ」と表現されていることで、勝利の喜びが一人だけでなく、チームみんなで分かち合つて歓喜の輪が広がつた様子が伝わります。翼さんの言葉選びで、チーム一丸となつて勝利した試合が伝わるとてもよい句です。

(北川雅士..滋賀県総合教育センター)

# お父さん 他の人撮つてた 運動会

池澤歩志

滋賀県・草津市立笠縫東小学校

滋賀県・草津市立笠縫東小学校 4年

春の朝 あいさつしない 一年生

運動会は年に一度の晴れ舞台。歩志さんのお父さんもカメラを準備して楽しみにされていましたでしょうね。そのビデオを見た時に、

歩志さんが映つていなくて落胆する様子と、カメラの視点がずれるほど歩志さんの競技に心を奪われている様子が目に浮かびます。自分とお父さんの感情を一句にまとめる表現に、歩志さんの言葉のセンスが光ります。

(畠中翔太・大津市立田上小学校)

## 佳 作

滋賀県・大津市立瀬田中学校

山登り 皆で楽しむ 滝修業

京都府・立命館中学校

栗きのこ 今日は味覚の 詰め合わせ

京都府・京都女子大学附属小学校

あかいそら とんぼのおやこが とんでった

京都府・京都市立北白川小学校

運動会 声えん受けて かけぬける

滋賀県・大津市立瀬田小学校

重箱に いろんな願い つめている

滋賀県・草津市立笠縫小学校

冬の朝 起きるときは 布団さなぎ

4年 中川達揮

いもうとが 見たらほしがる ねこじやらし

4年 村田 司

滋賀県・野洲市立北野小学校

ひらひらと 秋風ともに もみじ散る

5年 山本悠太

風にゆれ おどつてているのは すすきかな

5年 粟山友愛

寒い朝 弟見ると みのむしに

滋賀県・大津市立膳所小学校

冬の空 トナカイさんの かけこつだ

若草山 紅葉と鹿の パラダイス

大晦日 どう過ごそうか 迷っちゃう

滋賀県・高島市立今津北小学校

風りんの 絵の金魚たち うごくかな

夏休み あそびつづけて さいしゅう日

ブロッコリー 土ぶとんかぶり そだつてる

滋賀県・高島市立今津東小学校

見つけたよ 落ち葉にかくれた どんぐりを

ダイエット 秋の味覚が じやまをする

秋の夕日 みんなで笑つた 帰り道

もみじの葉 くるくるまつて 水の上

5年 谷村菜月

5年 川村 慧太

5年 木下七海

5年 藤田 花  
5年 川村 慧太  
5年 木下七海

6

## 滋賀県・高島市立新旭北小学校

虫の声 音楽さいの かいしかな

たんぽぽで いつものにわで 花あそび

どんぐりが 木からふつてきて いっぱいね

## 滋賀県・大津市立逢坂小学校

おいしそう いっぱいぶどう たべたいな

秋の朝 ねおきがいいな 風わらう

## 埼玉県・春日部市立武里西小学校

七五三 妹にもらつた ちとせあめ

落ち葉はね 風でまいちる 旅をする

ブロッコリー やっぱり合うのは マヨネーズ

赤とんぼ 夕陽にとけて 風ひとつ

## 埼玉県・さいたま市立大東小学校

家出れば クルマの窓が こごえてる

寒暁に 覚めてもまたねて ねぼうする

金木犀 歩くたびに いい香り

行きたくない 冬期講習は 予約済み

## 滋賀県・高島市立マキノ東小学校

冬銀河 きらきら光る 夜の空

雪だるま みんながすきな たからもの

雪だるま 丸く作って 遊んだよ

望月が しづかに光る きれいな湖うみ

嬉しいな 十個取つたら 栗ご飯

マスカット 口の中で 爆発だ

## 滋賀県・彦根市立高宮小学校

ゆきだるま のせてこわれて また笑う

思い出を 語つてふける 大みそか

給食に 苦手な野菜 冬の雨

スマッシュを 決めるイメージ 夏の朝

帰り道 約束をする 夏の風

3年 服部百花

3年 新幡圭吾

6年 関根唯愛

ひがん花 おひさまみたい もえている

あきのそら ふわふわのくも みつけたよ

えみぐりは ぼくらみたいに なかよしだ

にじのはし わたつてみたい ともだちと

夏の夜 空一面に 咲いた花

夏休み 宿題の山 終わるかな

秋の朝 気球が空を うめつくす

白い息 空にふわっと 広がって

2年 磯野萌恵

5年 藤沢希子

5年 小多彩煌

5年 鳥居 舞

## 滋賀県・東近江市立湖東第一小学校

5年 小野玲来

5年 北川咲希

5年 山内健瑠

5年 森岡詩月

5年 金山刹那

1年 青山 雅

1年 北村美桜

1年 澤井 結

1年 山崎絵礼那

6年 千藤凜太朗

6年 太田亜実

6年 山口琉丸

6年 小林葵沙菜

NPO法人現代の教育問題研究所主催の「近江の子ども俳句教室」（投句部門）は、今回で第6回となりました。先ずはじめに、今回も全国各地の学校、ご家庭から、多数の皆様からの俳句をご応募頂くことができ、厚く御礼申し上げます。おかげさまで「対面教室」の優秀作品と「投句」部門の入賞作品を併せた作品集をお届けすることができます。

審査会場では、

「捨てがたい句だ。よいところに着目して描いている」

「感動がピリピリ伝わってくるような句だ」

「うん、この言葉を選んだ作者の言葉の感覚は素晴らしい」

「この句では、こんな手法がうまく活かされている」

などと、投句用紙の句を一つ一つ読みながら、話し合いました。

応募作品を読んでみると、俳句は「五音十七音十五音＝十七音」の組み合わせで作る短い詩歌ですが、実に豊かな表現ができるのだなど、改めて気づかされました。

この作品集を手にされたら、クラスの友人やご家族でご一緒に読んで「私のいち推し句」を見つけてください。そして感想や好きな理由、特によいなどと思う表現、言葉と言葉のつながりや響き合いの素晴らしさなどを話し合って共有してみてください。句の表現を通して見えてきた情景、作者の俳句に込めた思いなどを語り合うひとときを、ぜひお持ちいただけたら光榮です。作る楽しさと同じように、読む楽しさもあることを感じていただけれることと想い作品集に掲載されている俳句の作者のすぐそばにいるつもりで、ます。

「私ならこんな言葉で書くけど、この表現だともつと楽しいなあ」

「こう考えたり感じたんだろうな、この言葉から分かるよ」

こと、言葉を通して互いの思いを分かち合ってみてください。そうする

ことで「国語の人間力」が育つことを切に願っております。

最後になりましたが、滋賀県知事様はじめ、大津市、草津市、滋賀県教育委員会、大津市教育委員会、滋賀県俳句連盟、草津俳句連盟、草津俳句連盟、エフエム草津、FMおおつの皆様には、開催趣旨をご理解のうえ御後援賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。併せて、事務局よりの問い合わせや確認等につきまして懇切丁寧に対応をしてくださいました、ご家族や各学校の教職員の皆様、ボランティアとして支援賜りました皆様に、実行委員会関係者を代表して心より御礼申し上げます。

令和八（二〇二六）年一月吉日

NPO法人現代の教育問題研究所

副理事長 森 邦博

NPO法人現代の教育問題研究所（理事長：吉永幸司）  
『国語力は人間力』 <http://kokugo.npo.com>

この合言葉のもとに基本的な3つの柱で事業活動をしています。

◇国語力・心の教育の実践を広く行う事業  
◇国語力・心の教育の実践を広く行う事業  
◇国語力・心の教育の実践を広く行う事業

この合言葉のもとに基本的な3つの柱で事業活動をしています。

◇国語力・心の教育の実践を広く行う事業

◆近江の子ども俳句教室実行委員会事務局  
〒602-0082 京都市上京区上天神町626の1  
090(8219)0442 m4432@ymail.ne.jp

◆お問い合わせ先  
NPO法人現代の教育問題研究所

〒520-10014 滋賀県大津市柳川2の1-1の5  
077(522)1008 yoshi-a@sunny.ocn.ne.jp





